

秋田紅あかり（あきたべにあかり）

登録番号：第12731号

登録年月日：平成17年2月7日

登録者：秋田県（秋田県秋田市山王4丁目1番1号）

育成者：丹波 仁 上田仁悦 佐藤 廣

佐々木美佐子 小林香代子 照

井 真 加賀谷松和

来歴：「王林」と「千秋」の交雑実生

育成地：秋田県横手市（秋田県農林水産技術センター果樹試験場）

特性

■栽培特性

樹姿は「王林」に似てやや直立性であり、若木時代の新梢伸長はおう盛である。しかし、樹勢は年次を経るに従い顕著に落ち着くため、花芽の着性は比較的容易である。結果枝は、短果枝の割合が多く、中長果枝の発生は少ない。結実後の早期落果（ジュンドロップ）および後期落果は共に認められず、生産力および隔年結果性は中である。

開花期は、「ふじ」とほぼ同時期である。自家不和合性を支配するS遺伝子型は、 S_1S_2 型であり、主要一般品種と交雑和合性があるため、相互に受粉樹としての利用が可能である。

収穫期は満開後175日前後であり、育成地（秋田県横手市）では10月下旬で、「王林」よりも5日程早い。

■果実特性

果形は円～長円、果実の大きさは平均果重370g前後と大王である。果色は鮮赤～淡橙、果点が大きく浮きあがり、ヒビも見られる独特の外観を呈する。果肉の色は黄色、肉質と硬さおよび果汁は中で蜜は入らない。糖度は屈折計示度で14～15%、リンゴ酸含量は0.2g/100ml前半と少なく、食味は極甘で独特の香気を感じられる。心かびの発生は、無～少、「ふじ」などに見られるつる割れや「千秋」特有の外部裂果は発生しない。果実の貯蔵性は、冷蔵で2月末まで、常温で12月末までであり、過熟気味に収穫した果実は、貯蔵中、果面にワックスが発生する場合がある。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

本品種は、通常の防除暦による散布で、特に問題となる病虫害の発生は認められない。特に斑点落葉病に対しては、無散布条件下の比較で「紅玉」並の強さを示す。

栽培上の留意点として、若木時代の果実着色は同一樹内でのばらつきや年次変動が見られ、特に樹勢の強い高接ぎ樹では、大王でビターピットの発生が認められる。このため、高接ぎの際は樹勢の落ち着いた樹に行い、接ぎ木後は樹勢が安定するまで窒素施用量を減ずるか無施用とする。本品種の適樹相は、夏場の葉色が葉緑素計値（SPAD値）で45前後、葉中窒素レベル2.2%前後であり、「さんさ」や「王林」並の葉色が適する。

■地域適応性

秋田県内における果実の着色は県南部よりも県北部で優れ、また、9月下旬頃（満開後140日）の日平均気温が15℃を早期に下回る年ほど優れる傾向がある。したがって本品種の栽培適地は、着色能力から判断した場合、基本的には北東北など成熟期の気温が冷涼な地域と考えられる。

（上田仁悦）